

3. 令和7年度事業報告書（令和7年5月1日～令和8年4月30日）

（敬称略）

《事業の概要》

写真を通じて日本文化の進展に寄与することを目的に、令和7年度は次の事業を行った

《中長期戦略企画室》

1. 日本写真会館・建替え実現に向けて
 - ① スターツ・グループとは令和7年5月以降、全体会議をオンライン9回、相対(リアル)1回、個別会議は6回以上実施した
 - ② 令和7年8月末に解体工事請負契約書を締結し、9月より解体工事を開始。10月末基本設計を確定し、実施設計に移行した。令和8年1月以降、土地信託契約書、信託受益質権設定契約証書の内容協議した
 - ③ 今後のスケジュールとして、6月15日迄に解体工事完了、土地信託契約書等を締結。6月15日以降、建築工事開始及び土地信託開始。令和9年秋竣工予定
 - ④ 事務局は令和7年7月末 富士フィルムイメージングシステムズ(株)調布事業所に一時移転した
2. 「当協会の方向性(未来像)」構築についての協議
会館建替え後に向けて協議を開始した

《総務部》

1. 令和6年度功労者表彰/令和7年度功労賞贈呈者の決定
 - ① 第79回定時会員総会にて令和6年度功労賞受賞1名を表彰し、その栄誉を称えた
 - ② 令和7年度功労賞贈呈候補者5名を選出し、令和7年度第3回理事会にて議決・承認した。第80回定時会員総会にて表彰する
2. 全国ブロック、都道府県との合同会議を令和7年度は2回開催し、連携強化を推進した
（令和7年12月・次年度計画設定に向けて、令和8年3月・次年度計画遂行の準備状況の共有化と意見交換の場として、ともにオンライン会議システムにて開催）
3. 写館協との事業連携の一環として、第2回学校写真フォーラム(令和7年9月1日)開催等を推進した
4. 関連団体との情報交換と関係強化
日本写真著作権協会(JPCA)との連携強化により、会員の著作権意識の浸透を推進した
・「JPCA 教育利用アーカイブ」に対応する新「写真著作権者 ID 番号」の附番を受け、都道府県会長・理事長経由で全国会員に配布した
・ JPCAと共催セミナーを中国ブロック大会(7月29～30日)にて開催した
・ 日本写真著作権協会月例会議に出席し、JPCA ニュースを「写真文化」送付に併せて、全会員に配布した
5. 国際交流の推進・WPCの認知度向上策とWPC2026への参画
・ WPC2026 国内応募総数 300 点
・ WPC2025 授賞式 4月24日 アイスランドで開催
コマーシャル：川上和俊 ゴールドメダル(1位) / Amatou Taka 9位
ニューポートレート：HASEO 8位
ベストオブネイション賞(国ごとのベストアワード表彰) コマーシャル：川上和俊
6. 日本写真会館テナント管理徹底：建替え工事開始に合せ、令和7年7月末迄に全テナント退出を実現した
7. 当協会保有のサービスマーク(商標権)3種の更新：当協会及びブロック、都道府県のCI・印刷物、会員店舗の看板等の使用のサービス・マークは令和7年度に期限満了につき、更新を決定・実施した

《財務部》

1. 令和6年度公益目的支出計画実施報告書等提出 7月末内閣府へ提出・受理された
2. 主要事業の予算設定に向けた指針を月度会議にて協議
・ 文化部「全国展フォトコンテスト」等の主要事業については、収支見通しもしくは実績をもとに的確な予算設定に向けた指針を協議した
3. 財務・月度管理の徹底：財務部・徳田経理顧問・事務局と毎月度実施した
4. 令和8年度予算の策定：予算案を策定し、令和7年度第3回理事会にて議決承認された

《文化部》

1. 全国展フォトコンテスト(全国写真展覧会)の実施
 - ① 第71回(表彰式・入賞入選作品展)
 - ・ 応募数：1,888点(対前年▲11.4%)、応募件数：945件(対前年+3.4%)
 - ・ 審査員：辰野清、菅原隆治、田中秀幸、小林かずとも、根岸真二郎、野口進
 - ・ 入賞入選：入賞26点、入選75点、優秀賞15点 計116点
 - ・ 表彰式：令和7年5月28日(水) 東京都美術館講堂(東京・上野)
 - ・ 入賞入選作品展、会場・会期・入場者数

会 場	会 期	入場者数
東京都美術館(東京・上野)	令和7年5月28日(水)～6月4日(水)	1,569名

富士フィルムフォトサロン大阪	令和7年9月19日(金)～9月25日(木)	3,521名
入場者合計		5,090名

- ・ブロック選抜展を東京都美術館、富士フィルムフォトサロン大阪で併催した

② 第72回(募集・審査)

- ・募集期間：令和7年12月4日(木)～令和8年2月4日(水)
- ・応募料：単写真…1,500円/点、組写真…2,500円/組、学生の部…500円/人
- ・応募数：1,510点(対前年▲20.0%)、応募件数：740件(対前年▲21.7%)
- ・審査員：辰野清、山口規子、田中秀幸、小林かずとも、磯武、安達義博
- ・入賞入選：入賞26点・入選75点・優秀賞15点 計116点

賞	氏名	都道府県名	部門	タイトル
内閣総理大臣賞	谷地村 正史	青森県	第3部	淡 光
文部科学大臣賞	相川 頼之	千葉県	第1部	真夏の鼓動
文部科学大臣賞	辰巳 功	東京都	第2部	冬隣り
日本写真文化協会賞	山中 すみれ	和歌山県	学生の部	Looking for...
下岡蓮杖賞	富樫 淳	山形県	第3部	Silver Fifteen
奥田昇きもの写真大賞	長谷川 正之	青森県	第3部	二十歳
七五三賞・金賞	加藤 崇寛	千葉県	第3部	受け継がれし着物

2. 第74回写真の日記念講演会の開催

※ 第71回全国展フォトコンテスト表彰式(5月28日・東京都美術館)に併設して開催)

- ・講師：写真家 辰野清 ・演題：心写・心を動かす感情風景術 ・参加人数：100名

3. ポートレートギャラリー運営

- ① ポートレートギャラリー展示作品申込み・実施状況(令和7年1月～6月迄の半年間)
25会期全てを開催した。展示申込み概況は、申込み数37 選考合格25 落選12(倍率1.48倍)
- ② 写真展・展示内容分析(令和7年1月～6月)
・主催：会員展1、写真学校2、一般団体13、一般個人9 計25件
・内容：風景7(28%)、山岳2(8%)、花1(4%)、鉄道1(4%)、ドキュメント3(12%)、人物3(12%)、文化財1(4%)、混在7(28%)

4. スクールフォトビジネス対策の推進

- ① 第2回学校写真フォーラムの開催「子どもたちに安全な卒業アルバムを届けるために」
・日時：令和7年9月1日(月) オンライン開催 ・参加人数：200名以上
・学校写真や卒業アルバムを次世代に残すために、また、適正な価格を確保すべく、あらためて卒業アルバムの価値を言葉で明確に表した冊子「子どもたちに安全な卒業アルバムを届けるために」を制作。主に、その活用方法をテーマに開催した
- ② NPO法人「よみがえれ卒業アルバム」事業への協力を推進した

5. 写真の普及並びに写真文化・芸術に関する調査

- ① 日本写真映像専門学校卒業制作優秀作品の表彰
日本写真文化協会長賞：写真コミュニケーション学科・写真表現コース
長谷川阿由「はたらく。つながる。」
写真コミュニケーション学科・営業写真コース
大林律貴「切り文字じょしゅけ」
フォトファイン学科
時光一輝「distance」
日本写真文化協会奨励賞：写真コミュニケーション学科 宮本笑那「大好きな先生たちへ」

② 山梨県高等学校写真連盟年間表彰(日本写真文化協会賞)

- 金賞：山梨県立甲府東高等学校 石井宏直、銀賞：甲府市立甲府商業高等学校 笠井 あずみ
銅賞：日本大学明誠高等学校 笠木悠

6. 写真の祖 下岡蓮杖翁の顕彰

- ・墓参会：令和8年3月3日(火) 染井霊園(東京・巣鴨) 参加20名

《広報部》

1. 当協会の知名度・ステイタス向上のための活動推進…情報発信と収集・共有化の窓口として活動を展開した
取材体制においても、各ブロックに広報委員を選定し、充実させた
2. 出版関係：機関誌「写真文化」の更なる内容の充実及び、全国会員からの情報収集基盤の確立を推進した
① 「写真文化」では、新規連載企画「新写真文化」にて、和装撮影の問題点・課題と改善策をレポートする等、会員メリットの高いテーマに取組み、情報提供した
- ② 写館協編集部との情報交換
・定期的な情報交換により、編集企画の独自性を確保した
4. IT 広報関係：
① ホームページのリニューアルを推進。「写真文化」をお客様目線で提案する内容を目指し、更新した
- ② 未収都道府県からのメールアドレス収集を促進した
- ③ 全国展フォトコンテスト等のニュースリリースを発行し、主要事業の対外告知を推進した

《教育訓練部》

1. 令和 7 年度「第 62 回夏期写真大学講座」は開催を中止
 - ① 日本写真会館建替え・解体工事が令和 7 年 8 月以降開始で時期が重なるため、中止した
 - ② 休講中に新しい時代のニーズに対応した姿(夏期大のあるべき姿)を模索・検討した。その結果として、令和 8 年度・第 63 回夏期大は、写真館のメイン・メニューである、七五三と成人振袖の撮影にテーマを絞り、総花的な内容にならないよう、実務に必要な要素に集中し、確実にスキルアップにつなげる方針を打ち出した
2. 令和 7 年度実施・技能検定「写真職種・肖像写真デジタル作業(1,2 級)受検者増の働きかけ」
 - ① 受検者数減より、1,2 級は隔年の実施になったが、令和 7 年度は実施年であり、教育訓練部技能検定委員会より実施都道府県、受検希望者への個別サポート等、より積極的に受検者増の働きかけを行った
 - ② その結果として、1,2 級合計 99 名受検し、大幅増を実現した(対令和 5 年度 43%アップ)